

第1回 総合計画審議会 議事要旨

日時 平成22年1月12日(火) 午前10時00分～12時00分

場所 横須賀市役所 正庁

出席委員 青木康太委員、植竹喜三委員、大西隆委員、大武勲委員、小野間重雄委員、加藤茂雄委員、川名亘子委員、木村武志委員、木村忠昭委員、小林康彦委員、澤田信子委員、四宮浩委員、高須和男委員、高山英夫委員、土橋雅一委員、鳥居里美委員、中台学委員、永田翔吾委員、中村一郎委員、西原徹委員、林公義委員、原田昭一委員、藤原尉夫委員、松本敬之介委員、松本暢子委員、室町泰徳委員、森川菜摘委員、吉川智教委員、吉村彰展委員、渡辺昌昭委員(以上30名)

事務局 吉田市長

廣川副市長

横須賀市都市政策研究所 福本政策担当課長、小澤主査、檜山主任、山中主任

傍聴者 市民5名、市議会議員9名、記者2名

議事内容

1. 辞令交付・委員紹介
2. 委員長及び職務代理者の選出
3. 横須賀市基本計画の諮問
4. 市長挨拶
5. 委員長挨拶
6. 審議事項
7. その他

1. 辞令交付・委員紹介

ー市長より50音順に辞令交付

2. 委員長及び職務代理者の選出

ー総合計画審議会条例第3条第1項にもとづき、委員の互選により大西隆委員が委員長に選任された。また、大西委員長が小林康彦委員を委員長職務代理者に指名した。

3. 横須賀市基本計画の諮問

(事務局)

ー市長から委員長への諮問書の交付

4. 市長挨拶

(市長)

- ・総合計画審議会委員に就任いただき誠にありがとうございます。
- ・基本計画は、約30年という超長期の基本構想が掲げた崇高な理念や都市像を実現するために、10年程度の期間で実施する基本的な政策・施策を示したものです。全分野の政策・施策を位置付けるので、まさに市政運営の指針というべきもので、とても重要です。
- ・現在の基本計画が22年度末に終了するため、昨年度より新たな基本計画の策定に着手しました。これまで、市役所内の検討はもとより、市民アンケート調査や市内各地域に向いた車座会議などを行い、たたき台となる計画素案が完成しました。
- ・学識経験者や関係機関等の代表ならびに公募市民で構成される総合計画審議会には、今後の約9ヶ月間で、さらに内容を充実させた計画案の策定に向けて、専門的な立場や市民生活に身近な立場などから広範にご審議いただき、答申を賜りたいと思います。
- ・委嘱させていただいた委員の皆さまは、横須賀を愛している方々だと思っています。愛と恋は異なり、恋は盲目といいますが、横須賀を愛している人は、相手の嫌な部分をどうやって良くするか、あるいは良い部分を伸ばすためにはどうするかを、しっかりとご提言していただきたいと思っています。
- ・本市が置かれている状況は大変厳しく、危機的な財政状況の中で、加速する少子高齢化にどのように対処していくか、また真の意味での地域主権をいかに確立していくかなど、課題は山積しています。
- ・喫緊の課題もたくさんありますが、新たな基本計画の11年間では、特に長期的な視野で、横須賀が「持続可能な発展を遂げる都市」になるための土台づくりに力を入れたいと考えています。
- ・市民が住み続けたいと思う横須賀を作るにはどうすればよいか、我々が愛する横須賀を次の世代にどうしたら残していけるかを中心に、ご議論をいただきたいと思っています。
- ・大西隆委員長をはじめとした33名の委員の皆さまには、長期間にわたる審議でご負担をおかけしますが、横須賀の「道しるべ」となる基本計画づくりに、ご尽力いただきますようお願い申し上げます。

5. 委員長挨拶

(大西委員長)

- ・私は長らく横須賀市の都市計画審議会委員を務めてまいりましたが、総合計画審議会では都市計画よりも広い立場で議論するため、改めて勉強させていただきたいと考えています。
- ・総合計画審議会は、横須賀市が提案した素案に更に意見を追加することが主な役割となっています。各委員が考えている意見は可能な限り示していただき、素案の中に組み込んでいきたいと考えています。

- ・横須賀市の素案はよく出来ていると感じていますが、大きな課題である少子高齢化にどう対応するかを付け加える必要があります。高齢化自体はよいことであるため、高齢者が活動しやすい場作りが重要となりますが、少子化対策は難しいと思います。
- ・既に市の人口は43万5000人をピークとして現在、42万人まで減少を続けており、市の推計では現基本計画の目標年次である2021年に39万人になり、将来的にはさらに減少すると見込まれています。現在の低い出生率では人口減少に終わりは見えません。
- ・子供を育てることは、親の世代がよい人生であり、子供にもそのような人生を送らせてあげたいと思うかどうかで大きく変わってくると考えております。多くの市民が、次の世代も横須賀で人生を送ることを希望しながらも、段々と縮小していく現実に潜む問題に接近し、転換のきっかけを作る必要があります。
- ・各委員が横須賀を愛する気持ちによって、横須賀市民が地域と繋がるためのヒントやアイデアを基本計画に盛り込むことができれば、横須賀市にとって望ましい計画になると思います。審議会の最後回ではよい笑顔で市長に答申を渡せるようにしたいと思います。

6. 審議事項

－市長退出

－事務局紹介

(1) 総合計画審議会の公開について

(大西委員長)

- ・審議事項「(1) 総合計画審議会の公開について」事務局から説明いただきたい。

(事務局)

－資料1説明

(大西委員長)

- ・今の説明について、何か意見はありますか。(意見なし)
- ・次いで「(2) 総合計画審議会の運営について」説明いただきたい。

(2) 総合計画審議会の運営について

(事務局)

－資料2説明

(大西委員長)

- ・この案についてはいかがでしょうか。(意見なし)
- ・なお、各分科会の委員会の座長、副座長を指名させていただきます。交流分科会の座長

には、細野助博委員、副座長には室町泰徳委員、共生分科会の座長には、吉川智教委員、副座長には松本暢子委員、創造分科会の座長には、影山清四郎委員、副座長には澤田信子委員を指名させていただきます。

- ・次いで「(3) 総合計画審議会委員名簿について」事務局より説明いただきたい。

(3) 総合計画審議会委員名簿について

(事務局)

- ・各委員の机上に配付させていただいた「総合計画審議会名簿(案)」をご覧ください。
- ・この資料に委員長及び分科会の座長・副座長を追記し、横須賀市都市政策研究所のホームページ等に掲載することをご承認いただきたい。

(大西委員長)

- ・何か異議はありますか。(異議なし)
- ・特に異議がないため、事務局の説明のとおりとします。
- ・次に、「(4) 総合計画審議会議事録について」事務局より説明いただきたい。

(4) 総合計画審議会議事録について

(事務局)

一資料3説明

(大西委員長)

- ・何か意見はありますか。(意見なし)
- ・では、議事録については、要点筆記で発言者氏名は公開とさせていただきます。
- ・議事概要の確認は可能でしょうか。

(事務局)

- ・議事概要(案)は、EメールあるいはFAX等、各委員が最も早く受け取れる方法で配付します。
- ・各委員から修正意見があれば、事務局で修正して確定版を作成します。

(大西委員長)

- ・次に、基本計画素案について審議を進めさせていただきます。

(5) 横須賀市基本計画素案について

(大西委員長)

- ・本日は第1回であるため、委員全員より意見をいただく予定です。その前に素案の概要

を事務局より説明いただきたい。

(事務局)

－資料4「基本計画策定方針」、資料5「基本計画策定スケジュール」、資料6「現在の総合計画について」、資料7「横須賀市基本計画(2011～2021)素案」説明

(大西委員長)

・第4章～第5章は現在表形式になっているが、今後どのような形式となるのか。

(事務局)

・現在のように表形式でお示しすることには変更はありませんが、右側の説明欄がより具体的な施策を示すことを想定しています。

(大西委員長)

・第3章「重点プログラム」～第5章「まちづくりの推進姿勢」では、分科会で議論することを予定しています。従って、今回は主に第1章「社会経済環境の変化と横須賀の基礎的な課題」及び第2章「計画の条件」についての意見を述べていただきます。但し、第3章以降についても強い関心があればその限りではなしとします。

(中台委員)

・横須賀青年会議所で昨年までは理事長を務めていた中台と申します。
・横須賀青年会議所は、どのようにして魅力的なまちをつくるかを常に念頭に置きながら活動させていただいています。
・人々のつながり、信頼や規範はまちづくりの原点であり、ソーシャルキャピタル（社会関係資本）の活用が横須賀市の財政や人口減少の歯止めになります。
・総合計画審議会委員として、魅力的なまちになるように議論させていただきたい。

(永田委員)

・公募委員の永田と申します。現在、県内の大学に通っています。
・横須賀市ではユースフォーラムの実行委員や先日行われました成人式の検討委員等、市の行事に参加させていただいています。
・少子化の課題は地域社会の発展、特に経済の発展と雇用確保だと考えております。市外で働いていても横須賀市に住所を留めてほしいですが、私の友人の中にも就職により横須賀を離れる人も多くみられます。
・横須賀の魅力を知らないまま就職活動をし、地域を離れることも課題であり、横須賀の魅力をより多くの方に知っていただくことが重要です。

(中村委員)

- ・横須賀市観光協会代表で、普段は JTB の横須賀支店に勤務しています。分科会では交流分科会を担当させていただく予定です。
- ・観光という観点から横須賀市のまちづくりについて提言していきたい。
- ・数年前から弊社では交流文化産業として、全国の支店網を用いながら、地域に密着した観光サービスを提供できるように日々努力しています。
- ・横須賀市には魅力的な素材が多くあります。既にこうした素材と結びつきながら成長している地域もあり、様々な地域と結びつきながら観光の発展を目指していきたい。

(西原委員)

- ・連合町内会の代表を務めております。
- ・町内会は市政運営上の基盤になると考えます。市政のあらゆる分野で市民と直結した活動を広めていくことや、住民の声を市政に伝えていく等の役割を担っています。
- ・横須賀市には町内会が約 360 ありますが、大きな町内会では 2,500 戸、小さな町内会では 10~20 戸と各町内会によって規模が大きく異なっています。
- ・また、町内会のうち 3 分の 1 から 4 分の 1 はマンション自治会となっています。マンションの住人は管理組合には 100% 加入していますが、自治会への加入率は 60%~70% 程度となっています。このように、地域や居住形態によっては住民全員が町内会に加入しておらず、住民の全員を把握できていません。
- ・但し、多くの住民の代表であることに変わりはなく、地域固有の事情を集約し、市に申し出る役割を担っています。
- ・町内会は、環境、福祉、安全、建設など幅広い分野を担っています。私も、クリーンよこすかや防犯協会なども兼務しており、幅広い視点から意見を申し上げたい。

(林委員)

- ・横須賀市自然・人文博物館長を務めています。
- ・今までも基本計画に対して、博物館の立場だけではなく、様々な立場から意見を申し上げてきました。
- ・1 章~2 章について意見を述べると、基本計画素案 p. 5 によると市民アンケートで 83% が「緑や海などの自然環境に恵まれている」ことが重要であると述べられていますが、この数字がどのような理由から来ているのか疑問に感じます。
- ・また、素案の p. 17 に示されているような拠点の配置や交通整備等は、周辺市街地化を促し、自然環境とのマッチングが難しいのではないかと感じます。

(原田委員)

- ・横須賀市漁業振興協議会に所属しています。

- ・安心で安全な水産物の供給のために役立ちたい。漁業は環境とも密接に関わっており、環境問題についても発言したい。

(藤原委員)

- ・横須賀市社会福祉協議会に所属しており、社会福祉に立脚した意見を述べていきたい。
- ・地域福祉という言葉が生まれてから久しいですが、現在でも喫緊の課題となっています。この地域福祉の原点は、地域の問題が地域で解決できるように、人々の関係性を築き上げることが重要です。
- ・計画素案第1章をみると、横須賀市は非常に厳しい状況下であると示されていますが、このような状況でもよい計画をつくっていきたい。

(松本(敬)委員)

- ・横須賀市子ども会指導者協議会に所属しています。地域の子供は地域が育てるという視点から、青少年育成について意見を述べていきたい。
- ・町内会が360あるというご発言もありましたが、子供会も横須賀市には250あり、町内会と子供会の結びつきは重要です。

(松本(暢)委員)

- ・大妻女子大学に勤めており、都市計画・市街地整備・住環境を専門としています。
- ・以前、横須賀市の都市計画審議会に参加させていただいたが、横須賀市では景観や高さ制限など先進的な取り組みをしているという印象を受けました。
- ・計画素案を読むと、横須賀市の人口の減少が大きいと感じました。これは人口減少だけではなく、転出される人も多いのではないのでしょうか。一方で開発だけではなく、自然を守ることも重要であり、どこで折り合いをつけるのかを議論をしたい。

(室町委員)

- ・東京工業大学に勤めており、都市計画・交通計画、特に道路計画を専門としています。
- ・素案の将来推計人口を単純に伸ばしていくと、2040年には30万人程度になると推測されます。新たな基本計画では10年先を見越していく予定ですが、2040年くらいまでの将来人口を見越して今後10年先の施策を考え、仮に非常に人口が減少しても地域を運営できるような体制作りが必要ではないのでしょうか。
- ・過去について調べてみると、1960年頃では横須賀市の人口は30万人程度でした。20世紀の後半から人口が増加しすぎたとも考えられるかもしれませんが、今後どのように対応するのか議論したい。

(森川委員)

- ・公募委員の森川と申します。大学2年生で慶應義塾大学総合政策学部に通っています。人と人のつながりに興味があり、大学ではまちづくり、宗教やスポーツについて幅広く勉強しています。
- ・横須賀市においては、交換留学生としてアメリカに留学して以来、横須賀市内の様々なボランティアに参加させていただいています。
- ・高校時代は横浜市、現在では藤沢市に通学していますが、横須賀市から他地域に行くことは必ずしも悪いことではありません。他の地域から横須賀をみることで、魅力や改善すべき点を発見することができます。また、市外の友人に横須賀市のことを伝えたり、同時に市外の動向を知ることができると考えています。
- ・若者は、市内外の情報を発信・受信できる媒体になり得ると思いますし、自分も本審議会において、そのような有益なツールになれるよう、精一杯取り組んでいきたいです。

(吉川委員)

- ・早稲田大学大学院ビジネススクールに勤めています。大学の学部は理工学部でしたが、現在は経済学、特にイノベーション・マネジメントを専門としています。
- ・イノベーションはよく技術革新と訳されるが誤訳だと思います。革新は、販売や制度に関するものもあるからです。ただし、10～15年を振り返ると日本国内では技術革新ばかりであったと感じております。
- ・横須賀市の人口減少について、出生率が低いことよりも人口流出が問題であることに着目すべきだと考えており、その理由は雇用の機会がないことであると思います。
- ・昨年12月にシリコンバレーとデトロイトに出張してきました。デトロイトは自動車都市として有名ですが、現在自動車産業は斜陽産業となっています。一方で、シリコンバレーではナノテクやITなど新しい産業が常に生まれ、人口が流入しています。新しい産業を興さない限り、横須賀市の人口流出に歯止めはかけられないのではないのでしょうか。

(吉村委員)

- ・横須賀市立小学校長会副会長、北下浦小学校で校長を務めている吉村と申します。
- ・横須賀市の小学校は多くの課題を抱えており、子供たちが夢をもてるような学校教育に向けて今後10年間の議論を進めてまいりたい。
- ・現在、私の学校では読書教育に力を入れており、例えば朝の10分間読書などを実施しています。特色がある教育や、子供たちの学力を定着させるために、各校の校長と議論を進めており、この審議会を通じて教育について情報発信したい。

(渡辺委員)

- ・私はNPO法人神奈川県腎友会の理事や、この5年で宅地開発に携わることが多いため横

須賀市の土地利用調整審議会も務めています。

- ・都市計画法の 81 条に基づき開発を中止する条例をぜひ策定してほしい。
- ・また、総合計画審議会委員に市議会議員が選出されていないことに疑問を感じます。本日の傍聴席には市議会議員が多く、その分市民傍聴席も少なくなることに加え、横須賀市をよくするためには市議会議員も総合計画審議会に参加するべきだと思います。
- ・当初の予定では昨年 9 月から総合計画審議会が開催されるはずでしたが、本日まで延期されました。以前横須賀市都市政策研究所に問い合わせた際の説明によると、市長交代に伴い開始時期を変更したそうですが、市長の交代は総合計画審議会の運営には関係ないと思います。市長の考え方を活かすことも大切ですが、市長と議会と市民が作るのが地方自治であり、総合計画審議会を延期させたことは決して望ましいことではないです。
- ・横須賀市基本計画素案の文章がわかりにくいです。将来、基本計画素案をパブリックコメントに諮ることを踏まえて、高校生でも理解できる文章にしていきたい。

(事務局)

- ・渡辺委員のご指摘について、市民傍聴 20 名とは別に議員傍聴席をご用意しています。
- ・また、全国の自治体の多くは基本計画は市議会の議決の対象としていませんが、横須賀市では条例によって市議会の議決が必要となっており、議会の審議において市議会議員が大きく関わるようになっていきます。加えて、議会では特別委員会を用意しており、総合計画審議会とキャッチボールができるような仕組みを考えています。
- ・最後に、文章が理解しにくいというご意見は、ご指摘の通り、今後十分に気をつけます。

(青木委員)

- ・市民委員として参加している青木と申します。森川委員と同じく、慶應義塾大学総合政策学部に通学しており、現在大学 3 年生で就職活動をしています。
- ・他の委員に比べて専門性が高くないので、これから社会人となる青年層が横須賀に残って働きたいと思える仕組みづくりを重視する姿勢で総合計画審議会に参加し、このような目標を達成するため、市民がメッセージ性を感じられるような意見を述べていきたい。

(植竹委員)

- ・横須賀市老人クラブ連合会の会長を務めている植竹と申します。
- ・近所をみると老老介護、認認介護の状況となっており、高齢者だけで住んでいる世帯が多くなっています。青年層は市外に転出しているため、他の委員と同じく横須賀市には産業が必要ではないかと思えます。
- ・老人クラブは 2003 年をピークに減少傾向となっており、退職後の高齢者も老人クラブに入会しない傾向があります。
- ・仮に、退職後でも働ける場が作れば、高齢者に活気がでると考えています。

(大武委員)

- ・大武と申します。障害者施策検討連絡会の会長をしています。
- ・当会は結成10年となります。精神障害者・知的障害者・身体障害者等様々な障害者団体で構成し、相互理解を進めると共に、横須賀市という地域の中で障害福祉に関する意見を集約し、市に提言をしています。
- ・障害者運動の一つとして、駅舎のエレベーター設置要請活動がありました。横須賀市は他地域に比べ駅舎の改善は進んでいると思います。他にも、コミュニティの活性化など様々な活動を行っており、それを通じて得た視点から、総合計画審議会で意見を述べていきたい。

(小野間委員)

- ・神奈川県横須賀三浦地域県政総合センター所長の小野間と申します。
- ・人口が減少してきている中で、地域の資源を生かしながら、活力を生み出していく必要があると思います。
- ・ボランティア・NPOなどを活用して高齢者が住みやすいまちにしていくことが必要だと思います。
- ・交流人口・定住人口を増やす必要があり、広域的な連携が必要だと思います。
- ・大規模地震発生時の、緊急輸送路確保の観点からも交通網を充実させる必要があると思います。
- ・神奈川県では、地域づくり推進プランを策定し取り組んでいるが、横須賀市の基本計画の策定においても三浦半島を牽引していくような計画になるように協力していきたい。

(加藤委員)

- ・クリーンよこすか市民の会副会長と、西原委員と一緒に町内会自治会も兼任しています。
- ・横須賀市基本計画の素案には、町内会の自治活動と共通点が多いと感じました。普段の町内会活動でも安全・安心のまちづくりを進めています。簡単にはできません。また、緑が多いことも望ましいですが、道路を敷設しても市街化調整区域であるため、開発できず困っているという意見を地域からいただくこともあります。
- ・人口減少といいながらお祭りには想像以上に子供が多く参加しています。これは、親が横須賀市から通勤できないことを理由に横浜市や川崎市に転出し、お祭りの時期に横須賀市に里帰りしているためだと思います。横須賀市にも何か地場産業が必要ではないかと感じています。

(川名委員)

- ・横須賀市母親クラブ連絡会の会長を務めている川名と申します。
- ・吉川委員が述べられたように人口減少の原因は少子化ではないと考えています。私たち

は子育て中の人と子育てを終えたばかりの人が活動を行っており、周囲をみると横須賀市では3人兄弟が多いと感じています。

- ・私の子供は一人っ子でしたが、横須賀市の小学校に通ったところ、クラスで一人っ子は私の子供だけでした。一方で、子供が横浜市の学校に進学したところ、一人っ子が3～4割を占めていました。この理由を考えると、1点目は、横須賀市は全国で最も国家公務員が多く、経済的な豊かさによると思います。2点目は、横須賀市は2世帯住宅が多く、子供が育てやすい環境であることによると思います。
- ・横須賀市から転出する人が多いことは問題だと思いますが、横浜から横須賀市の自然に惹かれて転入した人もいます。このような人を増やす必要があります。
- ・子育て世代と高齢者は道路に対して感じる問題など共通点も多いため、高齢者にとって住みよい地域は子育てしやすい地域づくりに繋がると思います。
- ・また、横須賀市内の米軍に話を聞いたところ、日本の道路は車とバイクと自転車と歩行者がおり、非常に危ないという意見をいただきました。
- ・交流やにぎわいがあり、若い世代が転入してくるような地域づくりが必要であり、それを目指して一緒に取り組みたいと思います。

(木村(武) 委員)

- ・市民委員として参加しました。
- ・3世代に渡り横須賀市に住んでおり、現在息子二人は横浜に住んでいます。過去13年間中小企業役員として全国各地に1年半ずつ転勤を続けてきましたので、住みやすい街・住みにくい街を実感してきました。3年ほど前に転勤は終わり、仕事の面を考えると東京に住むことが望ましかったのですが、お墓は横須賀の長沢に建てて在りましたし、正に横須賀で骨を埋める程の愛着を感じていたために横須賀に戻りました。
- ・私が小学校の頃は11クラスありましたが、現在では2～3クラスにまで減少しており、少子化の進展を強く感じています。
- ・午後7～8時で既にシャッターを閉めている商店が多く、開いているのはスーパーマーケットとコンビニエンスストアだけという状況になっており、活気があるまちにしたいと考えています。現在、店街のシャッターを開けて活動をしている20～30代の青年との交流を始めており、横須賀の経済の再生を実行していきたいと思います。
- ・歴史ある横須賀市を、市民一人ひとりが市長になった思いで住みやすい横須賀、皆で創造していきましょう。

(木村(忠) 委員)

- ・横須賀商工会議所の会頭を務めている木村と申します。
- ・横須賀市の商工業の活動を通じて何か役に立ちたいと考えており、横須賀市で新たに仕事を始める人のお手伝いや、中学生に横須賀市の商工業を知っていただき、将来的に横

須賀市で務めていただきたいと考えています。市民アンケートをみても雇用に対する要望は大きく、現在空いている用地・オフィスに産業を誘致していきたい。

- ・横須賀市の YRP には多くの方が通勤していますが、横須賀市に住んでいる人は少ないのが現状です。横須賀市がより住みやすくする必要があると思います。
- ・現在は従来と大きくライフスタイルが変わっており、商業は大きくあり方を転換すべきだと思います。しかし、総合計画に示されている商業のあり方は従来とかわり映えがせず、新たな基本計画では新しいライフスタイルに対応した商業のあり方を示したいと思います。商工会議所も変化することは苦手ですが、新たな課題について情報発信したい。

(小林委員)

- ・横須賀市の廃棄物減量等推進審議会の委員長を務めています。
- ・廃棄物はひとつの市だけでは完結できませんが、複数市になると各市の意見を集約することが難しい状況になっています。
- ・次回以降は、各分科会に分かれて議論が進められますが、(委員のみなさんも) ご担当の施策分野だけにとどまらず、他の委員会にも目配りをしながら、全体を通じた意見を述べていただきたいと思います。

(澤田委員)

- ・私は介護福祉を専門としており、介護福祉を通じて豊かなまちを創造することについて興味を持っています。
- ・計画の素案の中にある、「横須賀市の自信と誇り」の中に、「安らぎ」も必要だと思います。また、そのためには、1点目は人生の最期を共に過ごすための看取りのケア、2点目はサービスを受けることを望ましくないとする文化から、「助けて」と言える文化と、「助けてもらえる」文化を醸成することが必要だと思います。

(四宮委員)

- ・横須賀市集客促進実行委員会に所属しています。この委員会は、横須賀市と商工会議所と私が勤めている京急電鉄の3者で運営しています。
- ・電鉄会社は人口や世帯数で収益が決まる業態です。日々の仕事では比較的短期的な収益等の分析に留まっていますが、審議会では中長期的な視野で意見を述べていきたい。

(高須委員)

- ・横須賀市安全・安心まちづくり推進連絡協議会副会長を務めており、町内会自治会の活動にも参画しています。
- ・現在、地域の活動を支えているのは、元気な高齢者です。高齢者も様々であり、高齢者の3分の2は元気な人だと思います。この元気な高齢者が地域の活動に取り組むような

仕組みが必要であると考えています。

- ・横須賀市も財政が厳しいため、地域でできることは地域でやるようにする必要があり、地域力を高める施策を中心に、発言していきたい。

(高山委員)

- ・よこすか葉山農協の高山と申します。農協は、安全安心な農産品の提供、地域農業の活性化に努めております。
- ・基本計画素案に関して2点あります。1点目はp.25の「魅力あふれる農水産業の振興」です。横須賀市はキャベツや大根の指定産地ですが、共に再生産の価格について危惧されているところです。この状態が続くと、後継者が不足し耕作地が放棄され、農水産業の振興の実現が難しくなってしまいます。そこで現在、販路を広げるためファーマーズ・マーケットを検討しています。
- ・2点目はp.29「緊急災害に強いまちづくり」です。JAは市内12店舗を構えており、当組合の社会的な役割として、緊急災害に強いまちづくりについて貢献していきたい。

(土橋委員)

- ・三浦半島地域連合副議長を務めている土橋と申します。日産自動車の労働組合で活動しています。
- ・先ほど吉川委員のご指摘にもありましたが、以前は当社の工場に他地域から人があつまり、定住人口を増やすことに寄与してきました。しかし、私が4年前に組合に入ってから、既に500名程度の方が地方に戻っています。
- ・私の出身は、武蔵村山市で東京で最も横須賀市に似ているといわれる東京都福生市の隣町です。福生市は、産業構造や米軍基地等も横須賀市と共通していますが、大きな違いとして変化のスピードが速い地域でした。例えば、非常に芸術家が多く住んでおり、16号線沿いの店が一気に入れ替わることもあります。一方で、横須賀市はどぶ板通りのように昔ながらの魅力的な街もありますが、このような街でも変化は常に必要だと考えています。今後、横須賀市がどのように変化していくのかを中心に議論していきたいと考えています。

(鳥居委員)

- ・市民委員の鳥居と申します。私も東京都の福生市の出身で、大学では地域社会学を学び、数年働いた後、結婚後6年前から横須賀市に住んでいます。現在では、子育てをされており、2人の子供が幼稚園に通っています。
- ・私が住んでいる汐入地区は谷戸地域となっており、階段と坂道が多く、子育てをする上では大変な地域です。しかし、よい面もあり、地域の高齢者が子供を気遣ってくれたり、景色がよい場所を教えてくださいました。

- ・今後、主婦の視点からの意見を述べていきたいと考えています。

(大西委員長)

- ・後日、委員の意見をまとめた議事録を事務局から提供いただきます。
- ・本日は産業・雇用に関する意見が多いですが、基本計画の素案では関連する情報が p. 15 の 1 ページ分に留まり、基本計画策定に係る基礎資料でもあまり述べられていません。今後、検討資料として、雇用や産業についてのデータも示していただきたい。
- ・加えて、本日委員から述べられた論点全般に対応して、経年的なデータ等も交えて、様々な角度で議論する必要があると考えています。
- ・では、本日の議論を踏まえて次回分科会を進めてまいりたいと思います。

7. その他

(事務局)

- ・委員長の意見は検討させていただきます。
- ・事務連絡がございます。次回からは分科会形式での審議となっており、交流分科会は 2 月 22 日 (月) 15～17 時、共生分科会は 2 月 9 日 (火) 15～17 時、創造分科会は 2 月 3 日 (水) 10～12 時に開催予定です。

(以上)